



Title	大阪大学低温センターだより No.100 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1997, 100
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/22165
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

＜編集後記＞

低温センターだよりはここに100号を刊行するに至りました。初代編集委員長、長谷田泰一郎先生が提唱された「阪大オリジナル」のポリシーをわれわれはずっと受け継いでいます。これは大阪大学のモットー「地域に生き世界に伸びる」にあい通ずるものでしょう。本冊子は国際定期刊行物として登録されており、大阪大学の情報発信源として、重要な役割を担っています。

今から5年前、1992年に、大阪大学低温センター20周年記念誌、「低温の歩跡」（編集委員長 櫛田孝司）が発行されています。ここには阪大低温センターを創設期からずっと推進してこられた伊達宗行先生をはじめ、センターと関係の深い方々の歴史的に貴重な文章がみつられています。そこで、低温センターだより創刊100号を記念する特別号としては、21世紀を見据えた現在、希望、夢、展望をキーワードとして、将来に視点を置き、液体ヘリウム関係の方々に気軽にエッセイ風の原稿をお願いしました。ご多忙中にも拘わらず、長谷田泰一郎、伊達宗行、両名誉教授の含蓄するところ大なる文章をはじめ、現職の先生、大学院生、低温センター技官の方々からのご寄稿をいただき感謝いたしております。櫛田孝司 理学研究科長（第2代編集委員長）は巻頭言で、21世紀の未明において、学問、大学、日本、そして世界における数々の大きな問題のご指摘と、解決へのわれわれ 科学者、技術者の基本的姿勢と方策について述べられました。

伊達宗行先生の「カピッツァ100年」を拝見し、ふと23年前に読んだ「科学・人間・組織」カピッツァ（金光不二夫訳 みすず科学ライブラリー45）を書棚からとり出して見ました。社会科学についての記述はさておき、本号の記事に関わるあまたの問題がそこに論じられており、21世紀への貴重なメッセージとして改めて読みとれます。たとえば、「ガムシャラに働くことは人間を疲労させ、その創造力を低下する。」「将来性のある大学院生を正しく選抜するためには、創造力と自主的思考能力が現れるような実験をさせ、……」、「地球という名のわが家」、「……人間の一生は4つの時期に分かれる。……75歳までの第3期を迎えて、やっと完全な人間になる。……」など、など。

豊中、吹田両キャンパスの液化室からは、液化機の現状と問題点が具体的に示されています。皆様の多様な内容、共通の問題点、大切なお意見などを参考に、新しい世紀にのぞみたいと思います。

100号記念特集号には、81～100号の総目次を掲載しました。本号の編集に当たり、低温センター所属の竹内徹也氏（豊中）と百瀬英毅氏（吹田）に負うところが大きく、ここに感謝いたします。

（百瀬 和生）

大阪大学低温センターだより 第100号

平成9年10月 発行

編集責任者 邑 瀬 和 生

発 行 者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市山田丘2番1号

電話 (06) 879-7985

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話 (06) 850-6691

印 刷 所 阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話 (06) 443-0936 (代表)

目 次

No. 100

巻 頭 言

21世紀を目前にして	櫛 田 孝 司	1
阪大オリジナルの源流—10年ひとむかし	長谷田 泰一郎	2
カピッツァ100年	伊 達 宗 行	4
低温センターだより100号記念によせて	都 福 仁	6
「低温センターだより」100号記念特集号に寄せて	濱 口 智 尋	7
低温と重い電子系の物理	理学研究科 大 貫 惇 睦	9
界面における二次元凝集体の科学をめざして	理学研究科 稲 葉 章	11
低温、高温、トンネル	産業科学研究所 川 山 巖	13
複合極限下における核磁気共鳴	基礎工学研究科 川 崎 祐	15
μ^+ SRによる磁性研究	理学研究科 山 本 良 之	17
「超伝導も一家に一台」の時代へ	産業科学研究所 植 野 祝	20
高分子科学の発展を女性の手で	理学研究科 佐々木 園	21
21世紀の物理と夢、現実について	基礎工学研究科 幡 谷 昌 彦	23
これから原研でやってみたいこと	基礎工学研究科 筒 井 智 嗣	25
「低温の将来の必要性」	工学研究科 尾 迫 伸 一	27
「ナノ構造」	理学研究科 佐 貫 朋 也	29
古きよき複合極限	基礎工学研究科 幸 田 章 宏	31
あるD2の独り言(うーん最近独り言がおおくなったなー)	理学研究科 佐 藤 真 直	32
明日出来ることは今日しない	極限科学研究センター 強磁場 太 郎	34
現場からの声	低温センター 豊中分室 浅 井 攻	
	株 喜 代 次	36
吹田分室液化室の模索	低温センター吹田分室 牧 山 博 美	38

総目次 (No. 81 ~ No. 100)	40
------------------------------	----